

行事に燃える2学期にしよう
練習は嘘をつかない。毎日の
活動を充実させよう。

根っこ

森町立旭が丘中学校第1学年
学年通信 第18号
令和2年 10月12日(月)
文責 間渕 彰浩

福祉体験学習終了

10/7.8に福祉体験学習を行いました。

「点字体験」では、森町の点字サークル「やまぼうし」の方々が講師として来校し、点字について学びました。点字の歴史、点字のしくみを教えていただくとともに、自分自身で点字を打つ体験をしました。しおりに「想像するところ」と自分の名前を点字で打ち、記念品としていただきました。

「グループ別体験」では、自分たちのテーマに基づいた施設を訪問し、課題追究を行いました。施設の方々に積極的に質問したり、バリアフリーやUDが使われている設備を探したりしながら、意欲的に課題追究を行っていました。安全に行って帰ることができ、私たちもほっとしています。

「車いす体験」では、森町の社会福祉協議会の方々が来校し、車いすでの生活を体験しました。扉を自分で開けたり、狭い道を進んだり、様々なシチュエーションを想定して車いすの操作を行いました。車いす体験は3人組で行い、車いすを介助する体験も一緒に行いました。車いすに乗っている人1人では難しいことも、助けてくれる人がいると活動がスムーズにできることを感じ取りました。

「ボッチャ」では、チーム戦を行いました。正式なルールで行うことはできませんでしたが、どのチームもみんなで協力しながら楽しく活動することができました。うまくいったときはチームメイトが手を叩いて喜んだり、高得点をとるためにどうすれば良いかを話し合ったりする姿が見られました。

私は、「点字体験」のしおりに書かれた言葉「想像するところ」の意味が印象に残りました。その内容を右に示してあります。ここに書かれているように、「ちょっと想像をはたらかせてみる」ことは、暮らしをよくしていくために、とても大切であると思います。また、この言葉に、「福祉」の大切な心構えがふくまれていると思います。日々の生活の中でみなさんも意識し、

一見何気なく咲く草花も
誰かや何かにとっては必要なように
今日の前に見えている世界だけがすべてではないこと
想像して過ごしてみたら、
少し優しいきもちになれるのではないのでしょうか
最近思うことは想像することがかけている人が多いのではないかと
特にSNSやたくさんの情報が簡単に行き交う世の中で、
自分がその行動をしたときにどうなってしまうのか
想像したら思いとどまれることも
想像できないからやってしまう
そんなことが多い気がします
そんなことも自分が見えている世界だけがすべてではないこと
たくさんの可能性を想像できるやさしい心をもってほしい

「ふつうの 暮らしの しあわせ」を考えていけると良いですね。

体験活動のようすを紹介します。

「点字体験」



「車いす体験」



「グループ別体験」



「ボッチャ体験」



※本校ホームページにはカラーで活動のようすが掲載されています。ぜひ、御覧ください。

本校ホームページURL <<http://mori-school.jp/asahi-jh>>